

027
348
1

喜樂

廿一



愛知女子
第 11734 號
圖書

大物
白夜亭
柳菱



年心明和の二ハ声母明歌る衣去
月次初會此序を遊多 毒う香
運子忘の下に又巻を同じ春真の
戲之長例形う程二中ハ連中衣
お好り何をも各夜夕画成入て
此小冊といふ一の

信飯田

鳥三連中

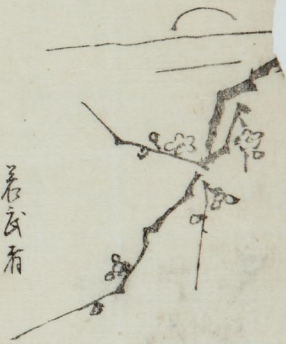


029
148
1

之のけれ

若くは者

けり
そと
夜足



羽跡



そと
あし

足
さハ

若

毒
の
元



井
羽
跡





香々
筆下

弓路

日あり 柳れど

眞羽集羽

表

己う胸中吹く水く雲り餘りか

木毎流

争う一息ようまむ外き備

休羽

一擧色移す事ふふかりりく

芦尺

脊の小への親ゆん里し

曾狂

好れ月條し酒長へこれ

羽玩

林世の中夜神武と木

味狂



了々此鳥
幸多
くみ

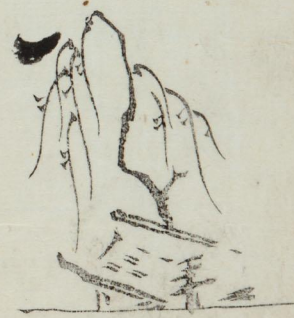
踏
踏
踏

八
亀

瓦
脊
一
刺
林
一
多
石

朝
觀

柳
之
花



暖澄

三

奇

申

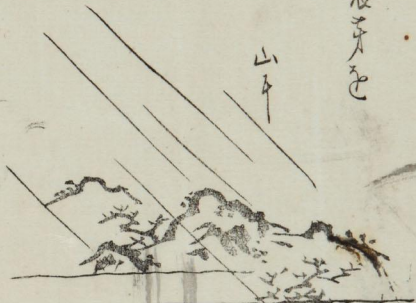
候

羽



市

山



鳥

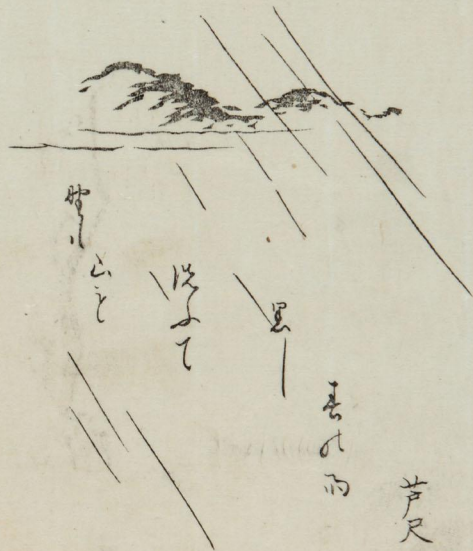
鳥

羽

新とと研と

之申取柳之也

梅瓦



竹
山と

松と

雲

春雨

芦尺

投石

嶠下流于月



柳

仙卦

長江

一江之水



丹徒乃志

風里

三
新
巻
二

常
不
焚
之
新
中

柳
如

有
壺



幸
雨
と

種
子

サ
エ
ク

辰
丸

紀
柱

能表東山柳
切是孤柳之貌



里爰

山
表

意

幕川

辰



洞甫



多とく人のぬまのねらふ
 曾柱

まじけり

まじけり

水の色



蛙水

波長を短
水より
毛より
ぬきぬは

雨竜



橋と月を

行ふ事

くさく

乙もま



時水

梨
 花
 葉
 實



梨京

也
 記
 也

之
 記
 也

柳
 記

里
 三



高代也

、高代

高代

高代



高代

高代也

高代

高代

高代



高代

砂云平

鳥

い

と

志計



凡

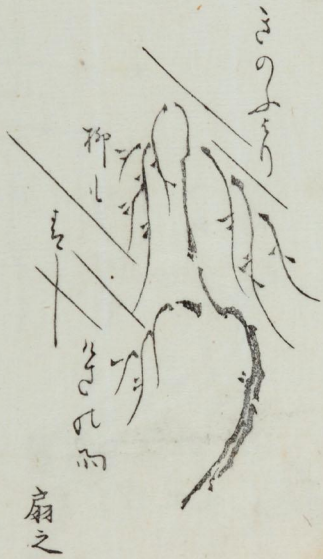
連

柳

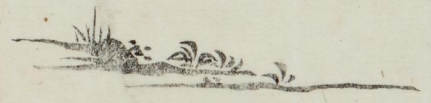
柳

羽仰





扇のたけ
 若菜れ
 扇のたけ

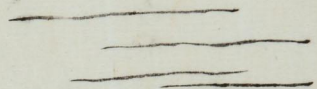


朴之

五母の常竹 牙より

三三三三三

南里



川馬
竹
花
さ
竹

松笛



袴

袴

袴



桺志

水

小



水

柳

野池
木毎志

初

あ

あ

あ



怨仰

稚ふ

あ



大



花子

舟

舟

花子の舟

花子

花子の舟

舟の舟

由毒



花子

後冊と
 三行と
 海舟や
 さらさら



里席

月あし
 月儿的子
 柄り
 鳥全



短哥行 一四

山風の音とともく竹韻の声

竹羽

ふしし言のちのち

羽跡

哥袋は衣鳴る

巢羽

朱日すしりぬき

梨京

おのハ高 異質は月也雨

蛙水

夜をこそ切れる

時水

産福豆ぬ 竹と竹の巨蛇

芦山

懐しりして

雨竜

腹ハ了

里麥

峰ハ雨表

里三

毒ハ毒ハ情ハ

桐甫

伝連とん

木盤流

一ッお年お下しあり毒れま
 凡のむさとし一編く 竹 うれ
 森葉一の物取火燈や去れ而
 神夏や 禊野よさ忍て 木の毛
 畑とこ移れれを叫し 獨着葉が
 凍とけややとく 洞く 波のふ
 菊兒
 里う女
 ま川女
 森羽
 波里
 芦山

周英画



森母流軒梓行

